

地域と子どもたちがつながり、活発に運動・遊びに親しめる環境づくり！

指導教員	石川工業高等専門学校 建築学科 准教授 恩村 定幸
	福井大学 工学部 建築都市環境工学科 講師 西本 雅人
参加学生	石川高専 尾田大地・桐沢良馬・澤田未来・嶋美依那・辻 巧明・山本理娑 北濱雅也・田中優衣・出口魁人・寺口拓治・中 萌乃・渡邊大尊
	福井大学 瀬成健志・執行良昭・伊藤祥希・北藤 宗・品谷恭佳・高嶋宏平 横山静香・和田滉太・渡邊崇寛・井上和樹・井上琢未・佐野晴香 中 宥介・判 凌成

1. 調査研究成果要約

H27 年度からの継続的な活動である。今年度は一昨年度に提案した「動」のゾーンを対象とした公園の整備を行った。整備の内容は公園の遊具の作成である。今年度は石川高専と福井大学が合同で企画を担当し、遊具の原案を作成するためにワークショップを開催し、児童自らが公園を作成し、整備管理していく意識を持つように配慮した。作成の際には学校側からの要望を加味し、遊具の安全性を配慮しながら、子どもたちにとってより良い遊具を作ることに努めた。

2. 調査研究の目的

野々市市立御園小学校の前には野代児童公園がある。その公園は、学校園がある他には使われていないキウイ畑やベンチなどが置かれており、ほとんど人が利用していない。本事業の目的は遊休化された公園を、現代の子どもたちに不足しがちな多様な運動の機会を与える場として活用するために整備することである。そのためには、小学校の児童や先生方の意見を取り入れ、さらに地域の協力を得て、子どもたちが運動・遊びに親しめる環境づくりを提案・実施する。

3. 調査研究の内容

7 月 14 日	遊具作りワークショップ ・遊具の原案作りのために小学生に模型で遊具を作ってもらうワークショップを開催した。
9 月	アンケート結果の集計と分析 ・より良い遊具のために子供達の公園利用についての分析を行った。
10 月～11 月	遊具のデザイン案の検討 ・福井大学にて遊具のデザインや配置の検討を行った。
12 月	遊具の図面作成 ・小学校、業者との打ち合わせを元に、施工するための図面を製作した。
1 月～3 月	遊具の整備 ・小学校の卒業式に間に合うように公園整備を行う。



図1 昨年度の整備後の写真



図2 今年度の敷地

4. 調査研究の成果

1) 遊具作りワークショップ

遊具の原案作りのために、子どもたちに遊具の模型を作成するワークショップを開催した。参加者は5年生3クラス計106名の児童と福井大学の学生4名である。

まず、学生より今回のワークショップの趣旨を説明し、各班の作業に移った。各班の作業では学生が各班に1人つき、子供達の意見を引き出しながら、模型作りのアドバイスをを行った。子どもたちは自分たち独自の使い方で材料を使い、楽しそうに模型を作っていた。最後に、各班で作成した模型を公園の図面の上に並べて発表会を行った。

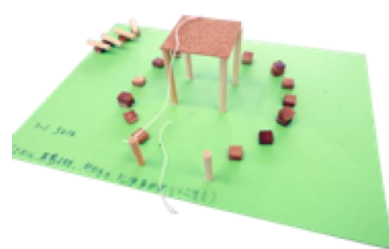
また、ワークショップ後に、成果を学校内に周知してもらうためのポスターを作成した。



図3 班ごとに遊具を製作



図4 全員で製作した遊具の発表



遊具
ワーク
ショップ
5の1

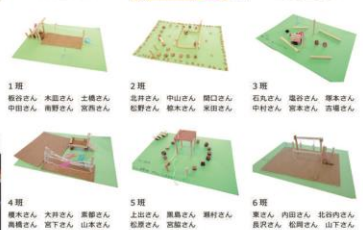


図5 子供達の作品

図6 ワークショップ後に作成したポスター

2) アンケート結果の集計と分析

1年、3年、5年生を対象に普段の公園の使い方についてのアンケートを行った。アンケートを集計して公園利用についての分析を行った。これを元に、より公園が利用されるための遊具のデザインの案や使い方を検討する。

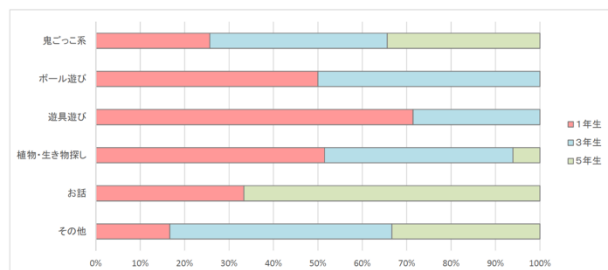


図7 遊びの種類別にみる学年ごとの公園内の遊び

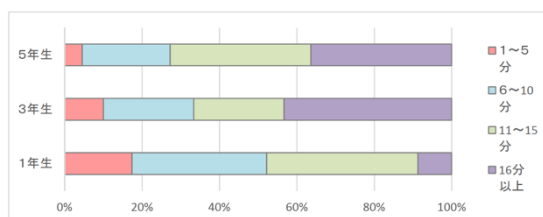


図8 学年別にみる昼休みの公園利用時間

3) 遊具のデザイン案の作成

公園の設置する遊具のデザイン案を検討するために、子どもたちによる遊具の模型を分析した。模型に見られるデザインの要素を抽出後、子どもたちの身長の高さごとに分類し、ワークショップでの班 A～R 計 18 班ごとに表にまとめた。(表 1) その結果、腰よりも低い高さの遊具が多く見られた。さらにレンガなどで平たい場所を作るものが多く見られた。この結果から子どもたちが走ることを誘発する遊具を求めているのではないかと考え、検討を進めた。

検討の結果、小学校の昇降口と公園、一輪車置き場を繋ぐように属性の異なる素材で道を作る案(道案 図 9)と属性の異なる素材の広場を点在させる案(広場案 図 10)を作成した。

表 1 子どもたちの模型にみられる遊具の要素

要素	A班	B班	C班	D班	E班	F班	G班	H班	I班	J班	K班	L班	M班	N班	O班	P班	Q班	R班	計
高い																			
丸太壁+ロープ							●												1
丸太小屋	●									●									2
丸太ブランコ																	●		1
丸太井形+ロープ				●					●	●	●			●					4
丸太台		●						●		●									3
丸太ロープ		●	●									●					●		4
丸太井形					●	●		●					●				●		6
丸太坂		●			●								●		●			●	5
丸太棒	●		●	●					●		●	●		●		●		●	9
丸太+板													●						1
丸太ネット							●												1
低い																			
レンガ+丸太	●										●								2
丸太	●		●	●	●		●			●		●						●	8
レンガ場	●		●	●	●	●	●	●	●			●	●	●		●	●	●	14
平たい場		●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	15

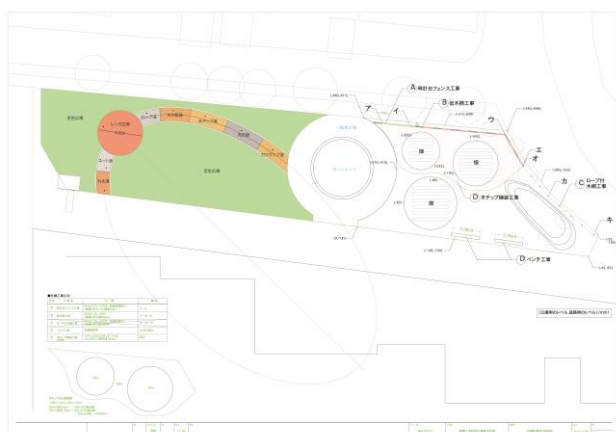


図 9 遊具図面 道案



図 10 遊具図面 広場案

4) 遊具の図面製作と打ち合わせ

道案と広場案を元に、小学校と打ち合わせを行い意見の交換を行った。小学校からは滑らない素材を使い子どもたちが安全な遊具にしてほしい、一輪車が通れるような道にしてほしいなどの意見を頂き最終的に道案で進めることが決定した。

この意見を元に図面を作成し、株式会社岡部と遊具の安全性の確保や予算の範囲内でより良い遊具を作るために具体的な打ち合わせを行った。ネット遊具の基礎の入れ方、ロープの止め方などを話し合い、岡部側に図面を委託し、正式な図面を書いていただくことで決定した(図 11)。

この図面を元に小学校と再度打ち合わせを行い、この図面で進めていくことが決定した。今年度は雪解けを待って 3 月 9 日を目標に遊具整備を行っていく。

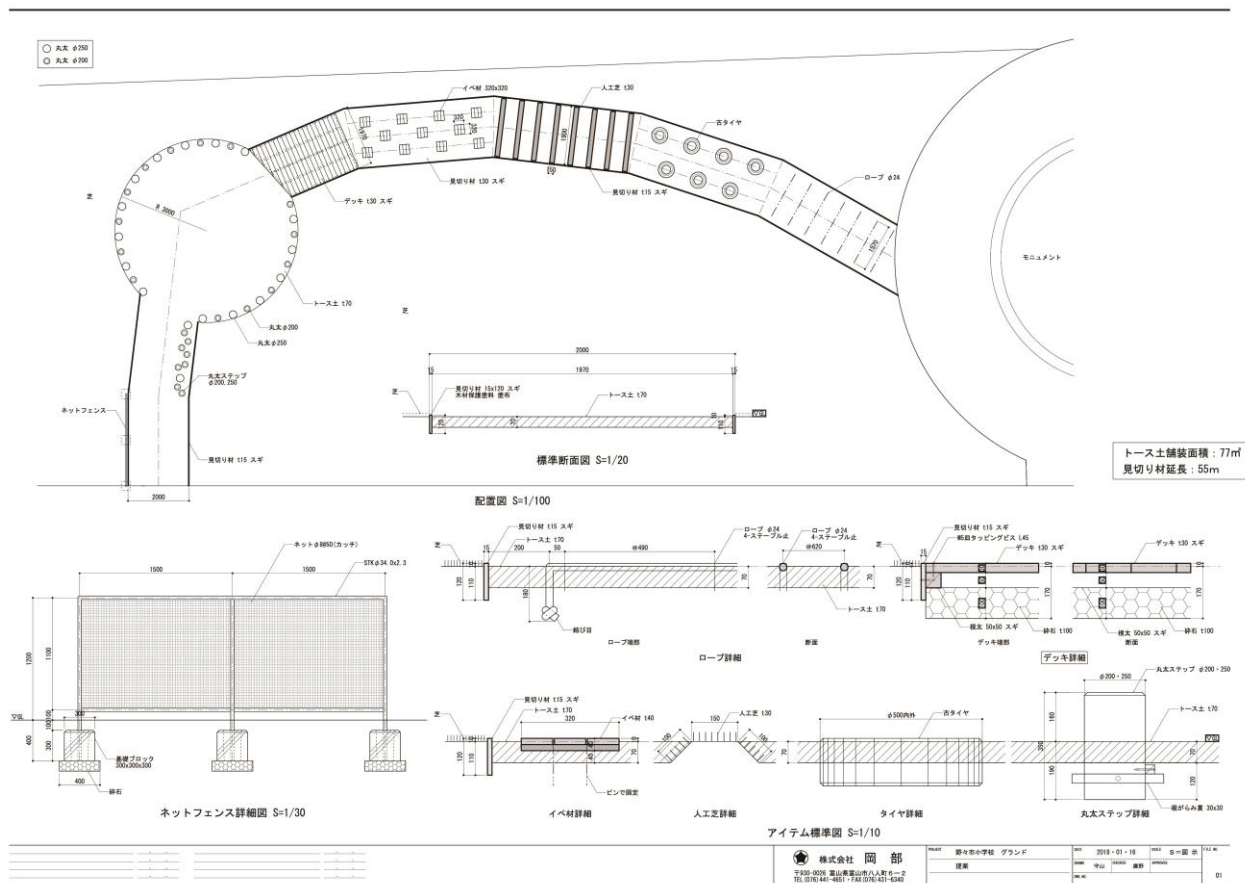


図 11 最終図面

5. 来年度の調査研究計画

今年度はこの事業の最終年にあたる年度であるが、子どもたちがいつまでも遊べるように、小学校の教師や児童で維持管理できる仕組みづくりを行う。さらに、石川高専や福井大学の学生らが定期的に利用状況の調査を実施しフィードバックを行う等、今後も小学校と地域と連携して公園の維持管理を行う、それと共に学生は維持管理がどのようにして行われるかを学ぶ。

6. 調査研究に対する地域からの評価

ワークショップの際に小学校の先生から、「あんな身を乗り出してまで活発に活動する子どもたちを初めて見た」と意見を得た。子どもたちに行ったワークショップのアンケートからも約 8 割の子どもたちに楽しかったという回答をもらったと共に、「自分たちが作る」という意識を感じさせるような回答が見受けられた。また「下の学年や地域の人が使えように作ろう」という意見や回答が見られ「他の人も使うもの」という意識を持っていることが見受けられる。「自分たちが作る」「他の人も使うもの」といった意識が持続的な公園づくりにつながり、このような意識作りを出来たことは今年度の事業の目的の 1 つは達成されたと思われる。課題は、持続的な公園づくりのために、こういった意識や公園の遊び方をこの事業に関わった 5、6 年生が下級生に伝えていくことである。

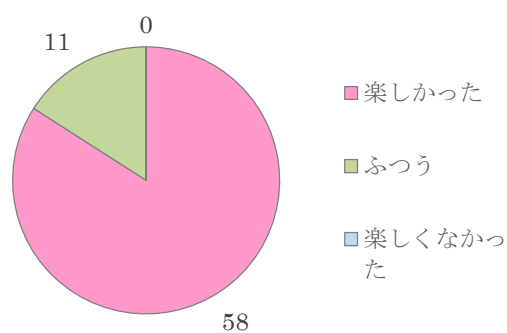


図 12 ワークショップの感想

表 2 自由解答から得られた感想

1～6 年生向けの遊具も作りたい。
自分たちが考えた遊具で遊びたい。
安全面と楽しさの両方を考えるのは難しかった。
みんなが楽しめる遊具を作りたい。
低学年の子も地域の人も遊べるようにしたい。